

公益財団法人 檜の芽会 御中

## 令和6年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】	① 作成日	令和 7年 5月 20日		
②法人・団体名	特定非営利活動法人ふらいおん			
③団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	大阪府茨木市並木町 13-5			
④責任者氏名	濱地 真代	(役職名等)	代表理事	
⑤担当者氏名	横山 豊	(役職名等)	理事	

## 【奨学活動の概要】

⑥助成交付決定番号	R06-035	⑦助成金額	100万円	⑧申請カテゴリー	D
⑨奨学活動名	無料塾事業				
⑩主な実施場所名・ 及びその住所	学習塾 Sien (大阪市天王寺区大道 3-1-19) 無料塾こみや (大阪府大阪市天王寺区小宮町 5-6 小宮住宅一号棟集会所) 無料塾ぐるにえ (三重県四日市市大宮町 14-9) ひだまり無料塾 (大阪府大阪市淀川区十三元今里 3 丁目 1-72) 寺子屋てらあ (大阪府大阪市天王寺区下寺町 西照寺) WaQ! (東京都江東区有明 3 丁目 5-1 東京 2・3 階 パナソニックセンター) 無料塾しずく (兵庫県神戸市西区北別府 2-12-1 与楽寺) その他提携無料塾等				

⑪活動内容とその成果の概要 (詳細は【様式3-2】又は別添資料にて記載・説明ください。)

## 【活動概要】

大阪、東京、三重など、全国で無料塾を運営しており、小学生～高校生を対象に学習支援や多様なまなびの機会の提供を行っています。それぞれの校舎に理念があり、学校での学習内容を補助する無料塾もあれば、あそびや交流の時間を大切にして、子どもたちの心地よい居場所となっている無料塾もあります。このように、子どもたちに対して多様なまなびや居場所を提供するのが、私たちの無料塾です。

## 【活動内容及び成果】

- ・2025年度末時点で約9000の子どもたち(延べ)に無料塾を利用していただいた。
- ・10校舎で月に30回程度開校している。
- ・1回につき平均7名程度の子どもたちが参加している。
- ・地域の社会福祉協議会やまちづくり推進協議会などと連携して運営している。
- ・他団体の無料塾運営者や教育に関する有識者などから、定期的に無料塾事業のフィードバックをいただき、反映している。
- ・夏休み中に自然体験合宿を行うなど、季節を反映したイベントなども開催している。

## 【活動場所】

大阪府、三重県、東京都 など全国

## 【人数や対象】

1回あたり平均7名（校舎によって様々です。最低4名~最大20名程度）、小学生~高校生

## 【開校頻度】

週2回~月1回

## 【講師の人数】

1回あたり3~4名を目安（子どもと講師の比率が2:1になるようにしています。）



⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式3-2等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A：人)	平均時間 (B：時間)	活動量 (A × B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	1100	2	2200	30(回) × 6(月) × 6.2(名) × 2(時間) = 2232
高校生等				
大学生等				
学習支援員等				
その他				
合 計			2200	

# 令和 6 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

## 奨学活動名：無料塾事業

法人・団体名：特定非営利活動法人ふらいおん

作成者 氏名：野田風馬

### 1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

私たちは、「経済的な格差によって学力の格差が生まれている」ことを憂えた大阪教育大学の学生らによって設立されました。法人設立当初の活動目的は、「経済的な格差がもたらす学力格差を是正すること」であり、現在も目的の一つに数えられています。

しかしながら、活動を進める中で、無料塾という存在は不登校やひとり親家庭、発達障がいを持つ児童・生徒など、さまざまなバックグラウンドを持つ子どもたちや家庭への支援にも繋がり得るということがわかり、「無料で、誰でも、適切な教育の機会を得られる場所を運営する」ことで、上記のような課題を解決することを目的としている。

### 2. 実施した奨学活動の詳細

#### 【活動内容の詳細】

##### 《全体概要》

放課後や休日など、子どもたちが参加しやすい時間帯に無料で学習活動ができる居場所を開設・運営し、教育格差の是正や子ども・家庭が持つ教育に関する課題を解決する。

##### 《活動場所》

大阪府、三重県、東京都など全国

(地域の社会福祉法人や区役所の教育推進課、子ども支援団体などと協力し開設)

##### 《時間》

放課後や休日

(校舎により曜日や頻度などが異なる。平日であれば 16:00 以降に活動を開始する校舎が多い)

##### 《活動内容》

宿題の補助や学習支援、アクティブラーニング等

##### 《対象》

小学生～高校生

##### 《講師の人数》

子ども：講師 の比率が 2：1 となるよう調整

## 【参加人数】

### ○月活動回数

1か月あたりの開校回数（全校舎合算） ⇒ 平均 約30回

### ○参加人数

1回あたりの参加人数（全校舎の平均値）

《児童・生徒》※小学生～高校生まで

⇒6.2名

《講師》※高校生～社会人

⇒3.5名

### ○合計（延べ）

《児童・生徒》

$30(\text{回}) \times 6(\text{月}) \times 6.2(\text{名}) = 1116$

《講師》

$30(\text{回}) \times 6(\text{月}) \times 3.5(\text{名}) = 630$

## 【周知方法や協力いただいた関係者】

### ○周知方法

SNS（Twitter・Instagram・Facebook・公式LINE等）、  
ボランティアコミュニティページ、  
チラシ

### ○協力関係者

地域の社会福祉法人  
地域社会福祉協議会  
地域役所教育課

## 【地域やボランティア活動との連携】

### 《具体的な実績》

- ・地域の社会福祉法人と提携し、施設内に学習支援活動を行う無料塾を開校。
- ・区役所の市民協働課と協力し、無償の学習支援事業が無かった地域へ無料塾を開校。
- ・大阪市教育委員会への事業申請により、公認ボランティア事業として登録

## 【学習支援員について】

### ○内訳

高校生、大学生が多数を占めており、活動意識の高さが伺えた。法人としては活動参加証明書等の発行により、キャリア面での支援をさせていただいた。

## 【購入した機材・物品の写真】



### 3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

#### 《活動から得られたもの》

多くの児童・生徒にご参加いただけただけでなく、講師の参加人数も述べ 1000 を超える結果となった。様々な子どもが無料で自由に通うことができるという無料塾の持つ特性上、学年の違う子ども同士が同じ空間で学び、時には遊ぶという場面が見られ、また、講師同士も同様であり、年の近い講師同士で意気投合したり、教育経験の豊富な講師から他の講師が学んだり、コミュニティとしての広がりを感じる結果となった。

#### 《反省点や課題、今後への発展性》

課題として、「常に子どもと講師の人数バランスを適切にすること」が挙げられる。

例えば、「子どもの参加人数が多いにもかかわらず講師の人数が少ない」という状況は、言わずもがな子どもを見る目が少なくなってしまう、学習支援にも影響が出る。

逆に「講師の参加人数が多く子どもの人数が少ない」という状況は、前者よりはマシであるが、本来もっと多くの子どもを見ることができリソースがあるにもかかわらず活用しきれていないということになるし、周りに大人が多すぎると子どももそわそわしてしまう。

時期により子ども及び講師の参加人数に増減があるのは自然ではあるのだが、如何にそのバランスを取ることができるかが今後への発展性に繋がるだろう。

また、「場所のキャパシティ上これ以上子どもが参加することができない」という状況も、教育格差是正を掲げている以上無視できない問題である。

こちらの課題に対しては、より多くの人数が入ることのできる場所への移転や、そもそもの無料塾の校舎を増やしていくことが解決策として挙げられる。